

第97回 令和7年10月6日（月）

日曜日は書道部の書道パフォーマンスを見る予定だったのですが、右腕2か所骨折、頭3針、膝2針縫うケガをしてしまいました。ぜひつぎの機会を教えてください。

今日は医療について。2020年代に医療は大きく変化しています。一番はAIですね。今はちょっとした心配事ならスマホで症状を入力すると疑われる症例が出てきます。信じられるのか不安になるかもしれませんが、何万例と言う症例を読み込んでいますから、経験の少ないドクターよりも知識はあるかもしれません。

さらにAIのデータ蓄積は増えていきます。とても人間が経験できない症例をすべて記憶して診断するわけですから、そのうち健康診断や人間ドックはAIの専売特許になるかもしれません。

これから増え続ける高齢者医療や、過疎地域の無医村医療などAIの出番はたくさんあります。さらにダヴィンチなどの遠隔手術ロボットがあれば助かる患者は増えていくでしょう。

2030年代には診察で病院に行くのは重症患者だけになるかもしれません。現在日本人の死因の1位は「ガン」ですが、こちらでも遺伝子治療や再生医療がかなり発達してきています。

遺伝子治療はもともと悪い遺伝子を切り取ってしまうもので、予防医療の分野と言えます。ゲノムの読み込みに何年もかかっていた時代から隔世の感があります。

できてしまったガンには分子治療薬と言って特定のがんをピンポイントで攻撃する薬が開発されています。さらに免疫でガンを攻撃する治療法も開発中であり、いまやガンはかならず死ぬ病気とは言えなくなっています。

不老不死の研究では人間の脳をコンピューターに移植する研究が進められています。人間の脳で考えていることをそのままコンピューターが同じ感情で考えるわけですが、動けないコンピューターの中で永遠に生き続けるのは一種のホラーのような気がします。

2040年には医療の在り方はだいぶ変わっていると思います。みなさんが年を取るころには死因の1位も今と違うかもしれません。

それでも寿命は120歳の壁は超えられないと言われています。いつか必ず死ぬならば直前まで元気であることと、死ぬときに痛かったり苦しかったりしないこと、この2つが開発されてくれるといいなと思います。